

純な心

近藤 番一 (慈友クリニック)

10月の月上旬に福岡市で第20回森田療法学会が開催されました。そこで「純な心百考」というテーマのシンポジウムが行われ、筆者は参加者のひとりとして報告をすませ、帰ってきたばかりでこの原稿を書いています。森田が強調した「純な心」というのは、わかりやすくいえば「素直な心」、「とらわれないそのままの心」で、彼は「すべての思想や行動を、感じや直感から出発するよう指導する。ここから出発する精神の発動が人間最上の真知識」といっております。つまり、人間の感情や直感の働きが事がらの中心であるとみなすのが森田療法の心髄ということになります。

神経症の治療というようなことを離れても、こうした心の純な状態を考えることは意味があると思います。だれにとっても、毎日の生活というのはあまり変わり映えのしないできごとの連続であり、そのなかでいつしかわれわれは、物事はなるようにしかならないという打ち克ちがたい考えにとらわれてしまいがちです。そうこうするうちに、他人が考えるように考え、感じるようにしか感じなくなってしまうことにもなりかねません。

そうならないためにも、なかなか難しいことかもしれませんが、森田が「純な心」ということばで表現した心もちがたまたまもてるように、いつも感覚をみがき続けていたいものです。われわれがこの世に生きる愉楽を覚えるのはまさにこうした瞬間においてでありましょうから。

事業報告

1. 会員数は77名になりました。森田療法学会でも呼び掛けをいたしました。
2. 秋の講演会は冬の講演会になりました。比嘉千賀先生と「発見会」松前保弘さんをお願いいたしました。
3. この同じ週を、森田療法普及週間として、展示室を模様替えをし、パルヌ国際ドキュメンタリー映画祭に招待された「常盤台神経科」の上演と、野中、藤田、丸山先生の鼎談などを企画しました。
4. 図書の整備で、「神経質」の1巻と3巻が欠けていることが分かりました。ご存じの方はお知らせください。(九州大学に第3巻があることがわかり、コピーをお願いしました。感謝です)
5. 図書室の名前が、文庫「あるがまま」と決まりました。

森田療法普及週間（2002年12月3日～7日）

12月3日（火） 15：00 パル又国際映画祭招待ビデオ上映

「常盤台神経科」

18：30 鼎談

「パル又国際映画祭に招待されて」

野中 剛・藤田千尋・丸山 晋先生

5日（木） 11：00 講演

「森田療法と心の健康」増野 肇先生

6日（金） 14：30 森田療法ビデオ全集第3巻上映

「生活の発見会」解説：大谷鈴代氏

7日（土） 14：00 冬の講演会

「女性の生き方と森田療法」比嘉千賀先生

「書座と対人恐怖とともに」松前保弘氏

3日（火）～7日（土） 森田療法関連資料・図書展示

会場：就労センター「街」（別紙ちらし参照下さい）

参加費：1500円（上記催しのいずれにも参加できます）

会員の皆様へ

森田療法に関心のある方に、本会とこれらの企画をお知らせ下さい。

森田療法研究に必要な資料で、欠けているものを補充することや、必要なものをそろえていくのに資金が必要です。会員のご紹介を下さい。

森田先生が最初に編集した雑誌「神経質」の第1巻が見当たりません。もし保存されている方がおられればお知らせ下さい。コピーなどにより再現したいと考えています。第3巻は、九州大学にあることがわかり、コピーをお願いしてあります。